

宮島沼でマガンの観察



(写真) 2回目の飛び立ち

4月25日早朝、ラムサール条約登録湿地の宮島沼（美唄市）でマガンの観察を行いました。

マガンは冬に日本に渡来する大型の水鳥で、渡りの途中、秋と春には北海道に立ち寄ります。約6~7万羽のマガンが集まる宮島沼は、国内最大の中継地として知られています。

今回は4名の学生とともに早朝の「ねぐら立ち」を観察しましたが、数万羽のマガンが一斉に飛び立つ際の地響きのような羽音や、鳴きながら空を埋め尽くす様子は壮観です。

その感動は、実際にその場に行かないと味わうことはできません。



(写真) 帰る途中でバフ変個体を発見

当研究室では、野生動物に関する歴史や文化の研究に取り組んでいますが、フィールドに出て実際の野生動物を観察する機会を特に大切にしています。文献史料に記された文字としての動物や、絵画資料に描かれた動物を見ているだけでは、その動物の生態や行動など生き物としての実態は理解できないからです。

野生動物に関する歴史や文化をより正確に読み解くため、今後も積極的にこのような機会をつくっていきたいと思います。

(久井貴世)